

心の散歩道

『まわりを照らす』

ローソクは

我が身

とかして

まわりを

照らす

お仏壇にあげるお灯明^{とうみょう}、それは心を照らす明かりです。

電化生活の現代、ローソクの火なんてと思う人がいるかもしれません。でもお灯明には、電気の光では感じられない、あたたかさがありますし、心を癒してもくれます。また、灯火は知恵をあらわします。ほのかに輝くローソクは、私たちの人生にも似ています。火が付けられてから燃え尽きるまで、その時間には決して長くはありません。その間、風に揺られ消えそうになることもあれば、パッと燃え立つ時もあります。ローソクの火は一樣でないだけに、私たちは親しみを感ずるのかもしれませんが。

しかしなによりも教えられるのは、最後まで、周囲を明るく照らし続けることにあります。形あるものは、いつかは滅します『諸行無常』。これは真理です。その真理をそのままにあらわしながら、ローソクは光り輝くその姿の中に、利他^{りた} 自分^{自分}のことよりも他人に役に立つ^{立つ} という仏教の根本精神を示してくれます。

一口に仏教と言いますが、それを読み下すと、二つの読み方ができます。初めに「仏が説いた教え」、次が「仏になる教え」です。初めの読み方という「仏」とは、お釈迦様が説いた教えを「仏教」といいます。また後の読み方は、「生命あるこの身このままで仏になる教え」。すなわち「成仏することですが、仏になると言うことはちまたで言われている「死ぬ」ことでは決してなく、「悟る 悟りをひらく」ことです。

いのちあるこのままの姿で、仏になることが本来の仏教の教えです。

ご仏壇にローソクをお供えし、心まで照らしてくれる明かりに、ご先祖様からいただいた生命の幸せを喜び、自己中心的な生き方ではなく、他を生かすことによって生かされている「共生の心 利他の心」を養いたいものです。

お盆は、目蓮尊者がお母さんの供養を行ったのがはじまりです。

家族全員が一同に会して時の流れをゆっくり味わってみては如何でしょう。何気ない風景が愛おしくも温かくも感じ、心に栄養を与えてくれることでしょう。